

中高年齢障害者の雇用管理・ キャリア形成支援に関する検討(その2) －事業所及び障害者調査の結果から－



- 梅原 瑞幾（障害者職業総合センター 研究協力員）
宮澤 史穂・春名 由一郎・稲田 祐子・
堀 宏隆・武澤 友広・中野 善史（障害者職業総合センター）

背景:障害者の中高年齢化

●令和5年度障害者雇用状況¹⁾

約64万人が雇用、前年比4.6%増

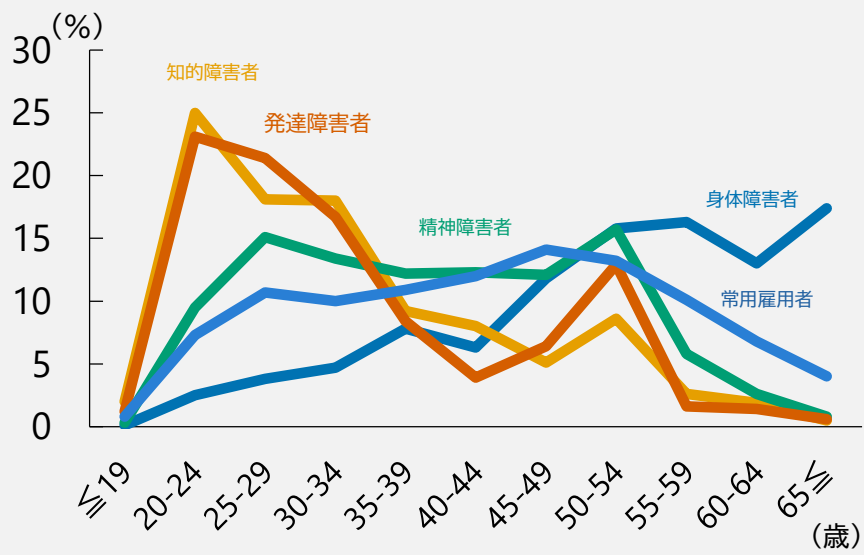
障害者雇用数は過去20年間連続で最高を更新

●一方、

障害者の中高年齢化も懸念

身体障害では

50歳以上の者が6割程度²⁾



1)厚生労働省(2024) 令和5年度障害者雇用状況の集計結果, https://mhlw.go.jp/stf/newpage_36946.html
2)厚生労働省(2024) 令和5年度障害者雇用実態調査, https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39062.html

課題:中高年齢障害者への 継続的な支援・配慮実施のために

雇用される
中高年齢障害者

中高年齢障害者を
雇用する事業所

- 事業所による必要な配慮等実施等が必要
- 加齢に伴う不適応の早期発見及び
それに対する継続的な支援・配慮の実施のために、
障害者に対するキャリア形成支援も必要

調査目的

目的:企業で実施されている35歳以上の障害者※への
キャリア形成支援の実態及び当該支援に対する
中高年齢障害者本人のニーズを包括的に把握すること

※(以下「中高年齢障害者」という。)

本報告では、以下の研究で行った、
事業所及び障害者調査の結果の一部を報告する。
「中高年齢障害者の雇用継続支援及びキャリア形成支援に関する研究」

調査方法(1)

事業所調査

調査時期

2024年4月から5月

調査形式

Web調査

調査対象

2023年6月1日時点における「障害者雇用状況集計結果」¹⁾より、障害者を1名以上雇用している企業(規模と業種により層化抽出した9,402社)及び特例子会社(全数598社)の計1万件

回答者

障害者を最も多く雇用している1事業所を選定の上、当該事業所の障害者の雇用管理業務の担当者へ回答を依頼

調査方法(2)

障害者調査

調査時期

2024年4月から5月

調査形式

Web調査

調査対象及び回答者

令和6年4月1日時点で35歳以上の障害のある者で、
事業所調査の対象事業所に雇用されている者(事業所からの紹介者)
もしくは障害者就業・生活支援センターまたは就労定着支援事業所を
利用しており、かつ、雇用されている者(支援機関からの紹介者)

調査項目

事業所調査

事業所の属性:「事業所の種類」「事業所の常用雇用労働者数」、
「中高年齢障害者雇用の有無」等

中高年齢障害者に対するキャリア形成支援の状況:

「中高年齢障害者が対象となる支援」、

「中高年齢障害者が実際に参加した実績がある支援内容」等

障害者調査

障害者本人の属性:「年齢」、「診断を受けた障害の種類」等

中高年齢障害者が参加しているキャリア形成支援の状況:

キャリア形成支援に関連する取組とその説明を提示し、

「勤務先におけるキャリア形成支援への参加希望」等

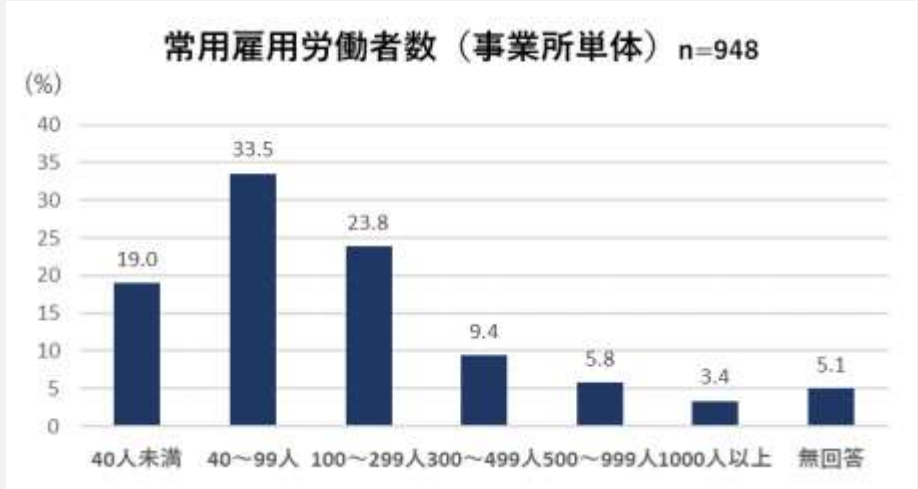
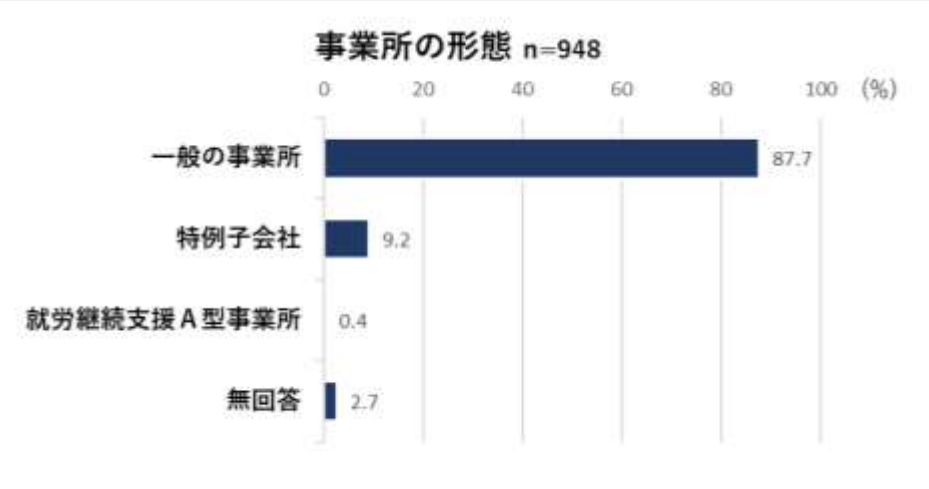
調査結果: 回答事業所および回答者の特徴

事業所調査

回答数: 948件(回収率: 9.5%)

事業所の形態: 一般の事業所が約9割

事業所単体の常用雇用労働者数: 100人未満の小規模な事業所が約5割



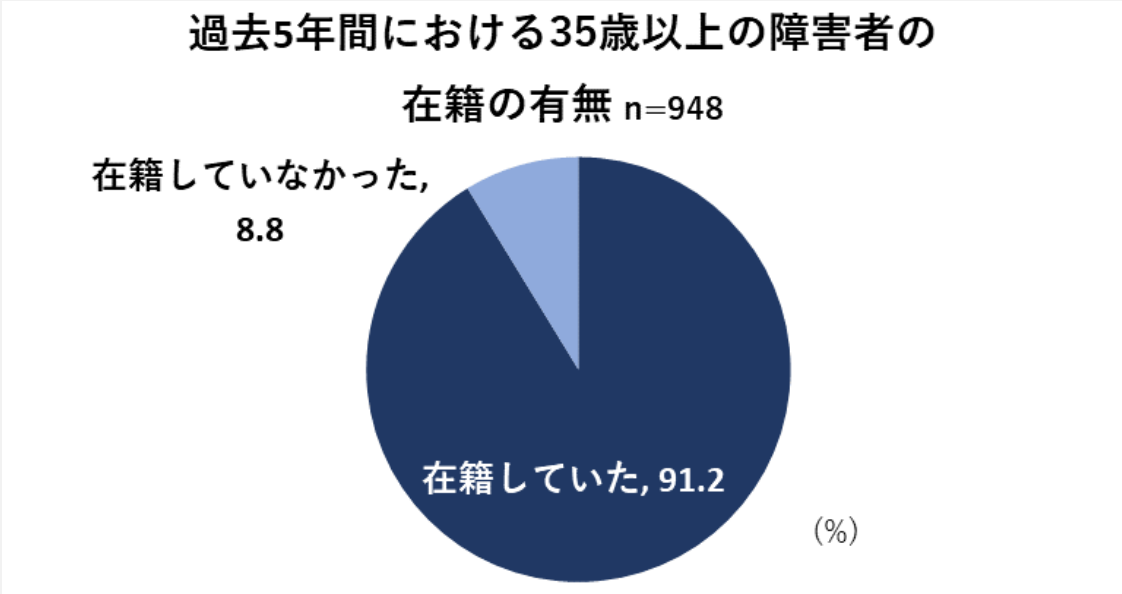
調査結果: 回答事業所および回答者の特徴

事業所調査

過去5年間ににおける中高年齢障害者の在籍:

在籍していた事業所は91.2%

在籍していなかった事業所は8.8%

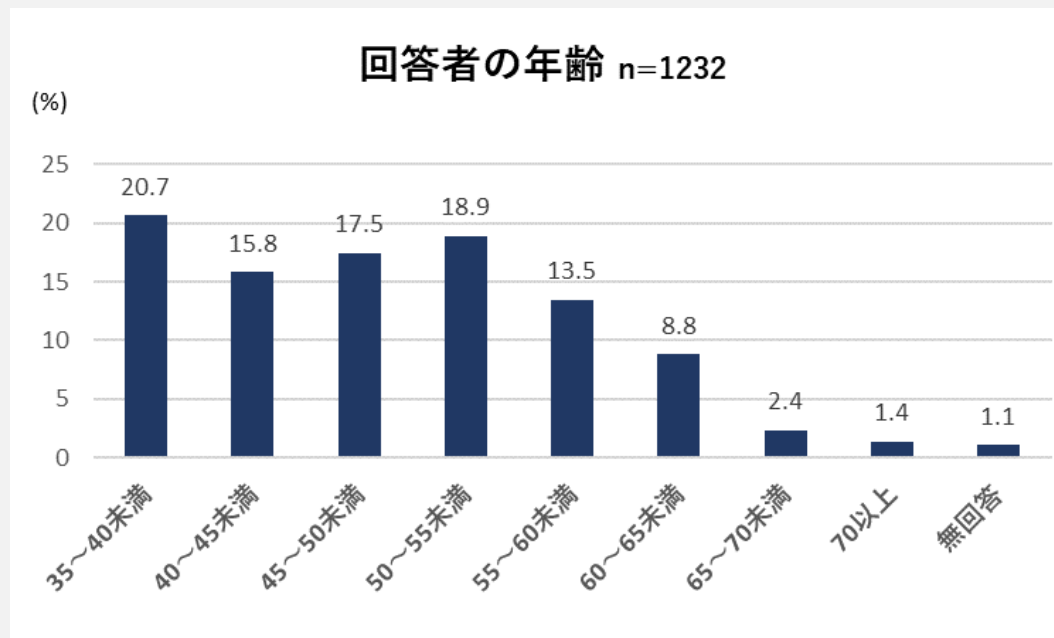


調査結果:回答事業所および回答者の特徴

障害者調査

回答数: 1,232件

年齢:「35～40歳未満」(20.7%)が最も多く、「50～55歳未満(18.9%)」、「45～50歳未満」(17.5%)と続いた

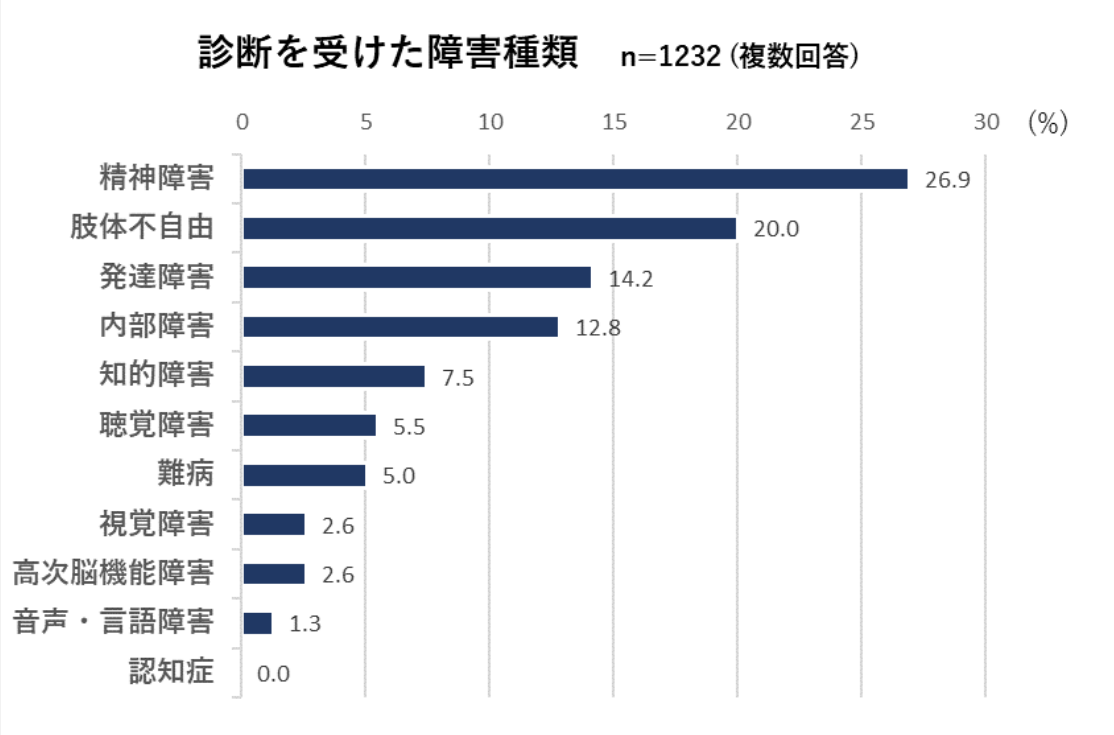


調査結果:回答事業所および回答者の特徴

障害者調査

診断を受けた障害の種類:

「精神障害」(26.9%)が最も多く、次いで「肢体不自由」(20.0%)、
「発達障害」(14.2%)であった



調査結果: 中高年齢障害者に対する キャリア形成支援の実際

事業所調査

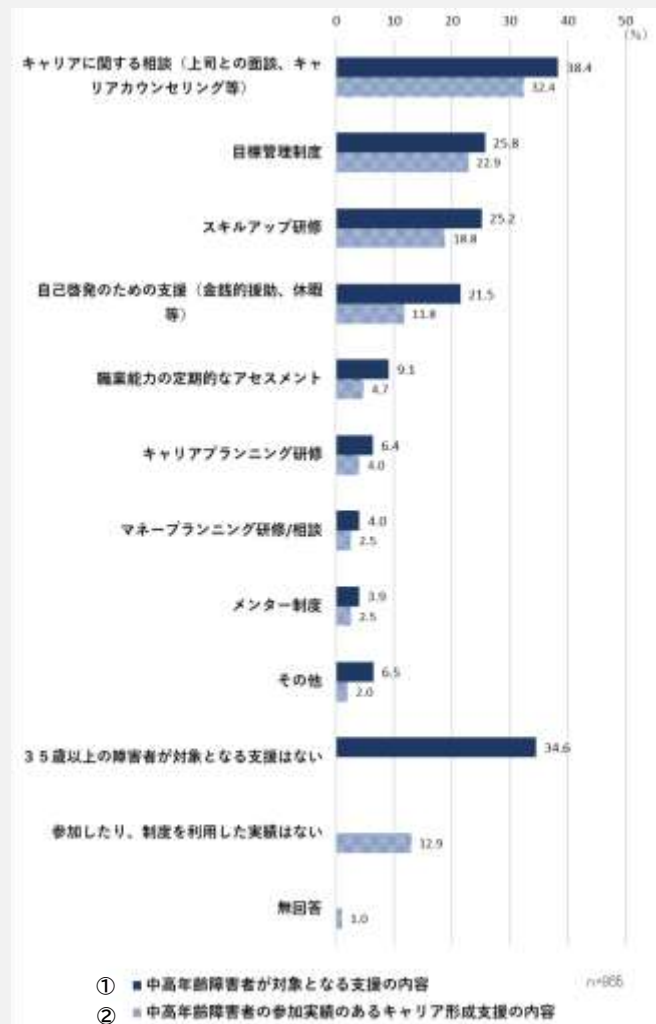
過去5年間ににおける中高年齢障害者在籍ありの
事業所へ①②を質問

①中高年齢障害者が対象となる支援の実施内容:

「キャリアに関する相談」(38.4%)が最も多く
「目標管理制度」(25.8%)、「スキルアップ研修」
(25.2%)と続いたが、「35歳以上の障害者が
対象となる支援はない」(34.6%)と回答した事
業所も一定数あり

②中高年齢障害者が参加した実績のある内容:

①と同様に、「キャリアに関する相談」
(32.4%)、「目標管理制度」(22.9%)、「スキル
アップ研修」(18.8%)の順で中高年齢障害者の
実際の参加割合が多い



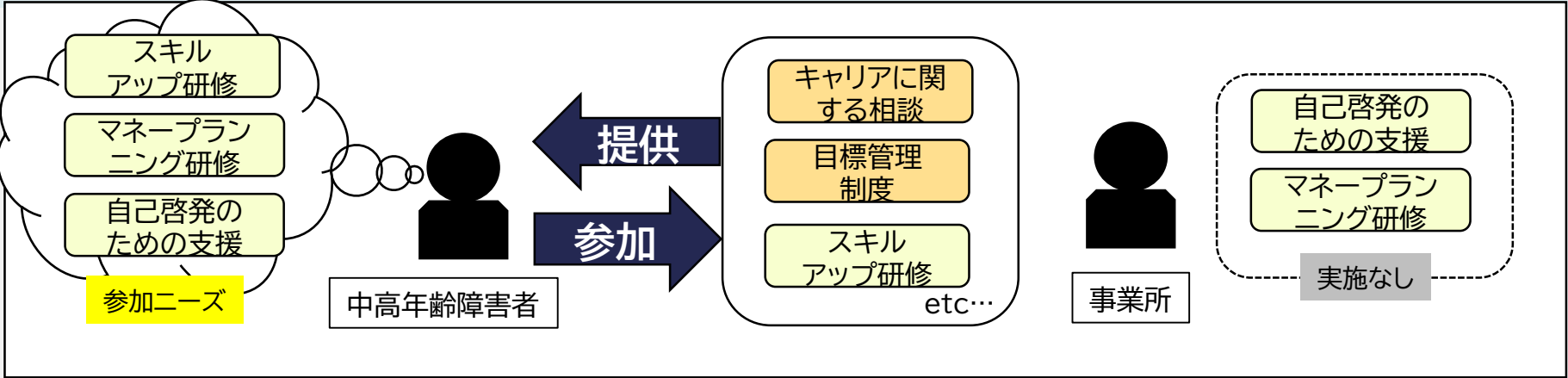
調査結果: キャリア形成支援に関する 中高年齢障害者本人のニーズ

障害者調査

キャリア形成支援の内容に対する参加の希望:
5割以上の回答者が参加したい内容は
「スキルアップ研修」(59.5%)、
「マネープランニング研修」(55.0%)、
「自己啓発のための支援」(53.3%)



考察



中高年齢障害者のキャリア形成支援ニーズと実際の参加内容のイメージ図

- キャリア形成支援の内容によっては、事業所による実施率と中高年齢障害者の参加実績の割合が同程度
キャリア形成支援を実施したものに関しては、中高年齢障害者に活用されている傾向
- キャリア形成支援に対する中高年齢障害者本人のニーズと事業所が実施しているキャリア形成支援の内容が合致していない可能性

最後に

●障害者の加齢による職務上の困難:

心身機能の低下に応じた職務内容の調整、ライフステージ・家庭内における役割の変化に応じた支援等幅広い支援が必要³⁾



中高年齢障害者個々のニーズを把握したうえで
事業所がキャリア形成支援の内容を検討することが重要

●35歳以上の障害者が対象となるキャリア形成支援がない企業も一定数(34.6%)存在:

障害者の経済面・精神面の充実に貢献するキャリア形成支援の実現へ向けた検討を進める必要

3)武澤ら(2023)中高年齢障害者の雇用継続支援およびキャリア形成支援に関する文献検討